

口絵写真および地すべりの概要 羅臼町幌萌海岸で発生した地すべり



(北海道支部提供 4/28 撮影)

<災害の概要：(斜面防災技術 Vol.42, No.2 口絵写真より) >

2015年4月24日の午前11時頃に、北海道目梨郡羅臼町の幌萌海岸において、春荊古丹右岸の緩傾斜地～平坦地（標高40m）の海側の縁で海岸の隆起現象が確認され、4～5時間で高さ10m程度まで達した隆起となった。翌25日になって隆起の原因は背後の地すべり現象によるものと確認された。

北海道立総合研究機構地質研究所の調査によると、地すべりは外形がほぼ三角形をなし、末端の幅が約380m、奥行きが260m、比高40mである。移動体は大きな変形を被ることなく海側へ数10mせり出していて、地表の立木に傾倒は認められないことから平坦なすべり面をもつ並進型の地すべりと推定された。不動域との間は幅10～30m、深さ20mの陥没帯が形成されている。

今回、この地すべりが注目を集めたのは、前面に高さ15m、奥行きが30mを超える隆起帯を伴っていたことによる。隆起帯の形成機構については今後の検討を要するが、今後、隆起帯で波による浸食が進んだ場合、現在は安定している移動体が再滑動する恐れがある。